検索キーワード
若水
子ども
お正月

きいむんの どぅ～ちゅいむにぃ～

－第11回－

テーマ　若御水（ワカウビー）

ハイサ～イ＆ハイタ～イ、みなさん！

寒い日がつづいていますが、元気でお過ごしですか？　２月は和名で如月（きさらぎ）、旧正月を迎える月です（ただし、今年は１月３１日が旧暦の元旦でした！）。

お正月といえば、戦前は、大晦日の夜（トゥシヌユルー）までにお浄めをする、門口に若松をさす、仏壇や床の間に色紙や花米・木炭・昆布・お金などを供えるなどして夜を過ごし、一番鶏が鳴く夜明け前頃に、家族のうちで年少の男の子が若御水（ワカウビー【注１】）をムラガー（集落の共同の井泉）に汲みに行く、という習わしがありました〈資料１〉。

ちなみに、元旦に若御水を取りに行くという風習は、月に対する信仰のあらわれとして、日本各地にありました。日本の神話の世界では、月は不老不死を司（つかさど）る「月読（つくよみ）」の神として信仰の対象になっており、人々は、年のあらたまりとともに月の神から与えられた若水を飲みながら長寿を祈願した、というわけです。また、男の子どもが汲んだ若御水は、霊水としての力が増すということで、売れば喜んで買ってもらったといいます。貧しい家庭の多かった当時、子どもたちにとっては貴重な労働報酬となったようですね。

【注１】「産水（ウブミジ）」、「孵で水（スディミジ）」などともいいます。また、日本古語では「若水（わかみず）」「変若水（をちみず）」といい、「初水（はつみず）」などと表現する地域もあります。

汲んできた若御水は、家の人が沸かしてお茶を入れます。それらを「ヒヌカン（火の神：かまどの神様）」や仏壇に供えました。そして、身なりを整え、晴れ着を着た家族がそろって仏壇などに手を合わせ、今年も若々しく健康であるよう祈るのです。それから皆で若御水のお茶をいただきながら、家族中で年頭のあいさつを交わしました。また、赤ちゃんがいる家庭では、赤ちゃんがすくすくと育つよう、若御水を指に浸して額を３度なでるウビナディ（御水なで）という儀式を行う地域もありました〈資料２〉。元旦の朝は、今の私たちのお正月よりもっとおごそかだったようですね。

画像
〈資料１〉参考資料②P36より。

画像
〈資料２〉参考資料②P66より。

さて、儀式的なあいさつがすむと、子どもたちにとってのお楽しみの時間がきます。新年のあいさつのあと、家族そろって年始まわり。お年玉をたくさんもらって、パッチー（めんこ遊び）やイットゥガヨー（おはじき遊び）〈資料３〉などの玩具を買いにおもちゃ屋や駄菓子屋へ走ります。「お正月」の歌にあるように、お正月は子どもにとって待ち遠しい行事でした。

さて、お正月の民俗行事に関心あるかた、資料はどこにあるかご存じですか？　資料は本館の「沖縄関係資料室」にありますよ～　どうぞたくさん利用してくださいね！

（沖縄資料担当：K）

画像
〈資料３〉参考資料③P68より。

《参考文献》
①ニコライ・ネフスキー著・岡　正雄編　東洋文庫185『月と不死』平凡社　1971
②沖縄県立博物館友の会　『子どもの世界　―沖縄本島地区編―』沖縄県立博物館友の会　1993
③川平朝申監修　『沖縄風俗絵圖』月刊沖縄社　1976